



二所一関



九月場所結果

序口			序二段						三段目					幕下	幕内		
西16	西15	西10	西81	西79	西73	西56	西40	東14	東75	西66	西59	東39	西29	東19	西16	東16	西関脇
西勢郷	古田	山田	阿見大心	澁谷	総勢山	足立	今村	林龍	羅漢児	貴正道	藤宗	谷口	麟虎	麒麟龍	花の海	白熊	大の里
全休	4・3	2・5	3・4	2・3・2休	全休	1・6	6・1	5・2	3・4	4・3	5・2	2・5	5・2	2・5	3・4	4・9・2休	優勝 13・2

十月場所新番付

前相撲	序ノ口		序二段					三段目						幕下	十両	幕内	
	東13	東9	東89	西86	東83	西68	東1	東70	東68	東66	東50	西40	東29	西5	東24	東3	西大関
西勢郷	総勢山	山田	澁谷	阿見大心	足立	古田	羅漢児	林龍	谷口	今村	貴正道	麒麟龍	藤宗	麟虎	花の海	白熊	大の里

白熊、新入幕は勉強の場所に。九州で再起を誓う

名古屋場所での優勝により新入幕となった白熊。幕内の猛者達はレベルの高い技術で、白熊持ち前の馬力を出させてくれない。苦戦が続く中で左足首を負傷、途中休場となった。「怪我は自分を見つめ直すチャンスだ」という二所ノ関親方からのアドバイスを受けて、白熊は治療とトレーニングに専念。九州場所ではパワーアップした姿で帰ってくる予感。大の里の活躍に1番刺激を受けているのは白熊のはず。幕内で優勝争いをするように、白熊の復活劇が九州から始まる。

麟虎、藤宗、林龍が5勝の大勝ち

幕下以下の力士達に苦戦が続いた中で、3人の力士が5勝。3人に共通していることは黙々と稽古を休まないことである。特に藤宗は新幕下に向けて大きな5勝目。九州はステップアップにしたい大事な場所である。普段から大の里の付け人を務め、今回は初めて巡業にも帯同した。大の里を誰よりも身近で見て、良い部分を吸収しているはず。二十歳の誕生日も迎えて、節目の年となることは間違いなく、双子の兄弟もそれぞれ5勝で九州では三段目に並び、早くどちらかが抜け出す形で、もう一方を刺激してほしいところである。



大の里、優勝に三賞2受賞！史上最速新大関へ！

大の里が夏場所に続いて2回目の優勝、三賞も2つ受賞し、文句なしの大関昇進を決めた。初土俵から大関昇進までの最速記録にもなり、記録尽くめの昇進である。元々アマチュア相撲でも充分すぎる実績を残していた大の里。それでも史上最速大関という偉業を達成できたのは二所ノ関親方の指導の賜物である。9月場所前、長い夏巡業で稽古を積んだ大の里は最終調整に入ったかに思えた。そんな中で二所ノ関親方は自ら廻しを付けて大の里との真剣勝負の稽古をおこなったのである。引退後6年が経過しているとは思えない激しい相撲で大の里と猛稽古。この稽古が大の里の飛躍のカギになったことは間違いない。まさに師弟が二人三脚で挿んだ大関昇進である。残るは師匠と同じ地位、横綱のみ。横綱に向けた師弟の挑戦は続いていく。



今村が6勝、三段目昇進を決める

3月に初土俵を踏んだばかりの今村が6連勝、最後の1番に敗れて優勝こそ逃したが、初めての三段目昇進を決めた。途中で叩いて相手呼び込んでしまう癖があり、それを二所ノ関親方から厳しく指導を受けていた。9月では悪い癖が全く出ず、見違えるような激しい突き押しが炸裂。6番目で幕内経験のある実力者、炎鷲を一方的に突き倒した相撲は圧巻だった。高校時代は全国8強入りした実力者、体も大きくなってきて本領発揮である。



二所ノ関親方の総評コーナー！

今場所は大の里の優勝、大関昇進という最高の形で終わることができました。これも普段からご声援、ご指導いただいている皆様のお陰です。ありがとうございました。地元である茨城県に部屋を興し、この地から横綱大関を、という目標を持って部屋を創設してからまだ3年。このスピードでの大関誕生は夢にも思っていませんでした。私も大の里に感謝しなければなりません。しかしまだ先に続きがあります。これから横綱になる為の指導をおこなっていききたいと思います。白熊は幕内に跳ね返され、怪我がありました。しかし力士は怪我をして強くなります。怪我をした原因を研究・解明して一から出直します。原因は身体にもありますし、相撲っぷりにもあるでしょう。身体と相撲としっかり向き合い、今こそ新しい白熊に生まれ変わるチャンスだと思います。幕下以下の力士、部屋全体としては良くない場所でした。私も弟子達と一緒に考えて、鍛えて、全員が笑って終えられるような場所にしたいと思っています。九州場所、私は現役時代から非常に相性が良く、好成績が多い場所でした。相撲界でいう「ゲンが良い」場所です。二所ノ関部屋が創設して最初の地方場所も九州からでした。素晴らしい設備の宿舎も用意していただいているので、2週間前から乗り込みしっかり稽古を積み重ねて本場所に臨みたいと思います。皆様、ご声援のほどよろしくお願ひいたします。

二所ノ関部屋を支える裏方さん達

大の里をはじめとする力士達の活躍に毎場所沸く二所ノ関部屋。その活躍を影で支えるのが行司・木村猿ノ助と床山・床二である。猿ノ助は幕下の土俵を毎日裁くことは勿論、普段は相撲字を至る所で書いて盛り上げていく。特に9月には優勝や大関昇進の準備・段取りを担当。稀勢の里が現役時代にも同じ段取りを経験しており、心強い存在である。床二は普段から力士達の丁髷を毎日結っている。場所中は大の里の丁髷に白熊の大銀杏と大忙し。本来、大銀杏を結うには5〜10年の修行が必要だが、床二は入門3年目にして完璧に結びあげる。大の里が優勝した際にはテレビにも映り髷結いを披露。これは床山にとって大変名誉なことであり、経験出来ずに終える床山も多い中での経験である。大の里のスピード優勝と同時に、実は床二もスピード記録を達成している。